

派遣先所属 宮城県仙台地方振興事務所

氏 名 小西 純一

派遣期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日

## 1 派遣業務の内容、現況

派遣先の仙台地方振興事務所農地整備第一班の一員として、災害復旧工事である排水機場のゲート設備や場内整備工事、松島湾に囲まれた名籠工区の区画整理工事などを担当しています。

今までに関わったことのない工事内容も多く、戸惑いながら、失敗を重ねながら奮闘しています。

たとえば区画整理工事では、掘削をするためのウエルポイント工法（地下水低下工法）により深さ4m程度の地下水を汲み上げて、海の水を引き込み地下水の塩分濃度を高くしました。鋼矢板打設工では、N値300の岩盤にぶつかり打設困難となったこともありました。横須賀排水機場では、ゲート設備据付のため既設水路に大型土のうで仮締切りをしたところ、水路の水圧により大型土のうが簡単に崩壊したことなどなど、悪戦苦闘しています。しかし、その一つひとつの出来事がこれまで経験できなかったことであり、知見の幅を広げ、今後の業務の糧になると考えています。

## 2 被災地の復興復旧の状況

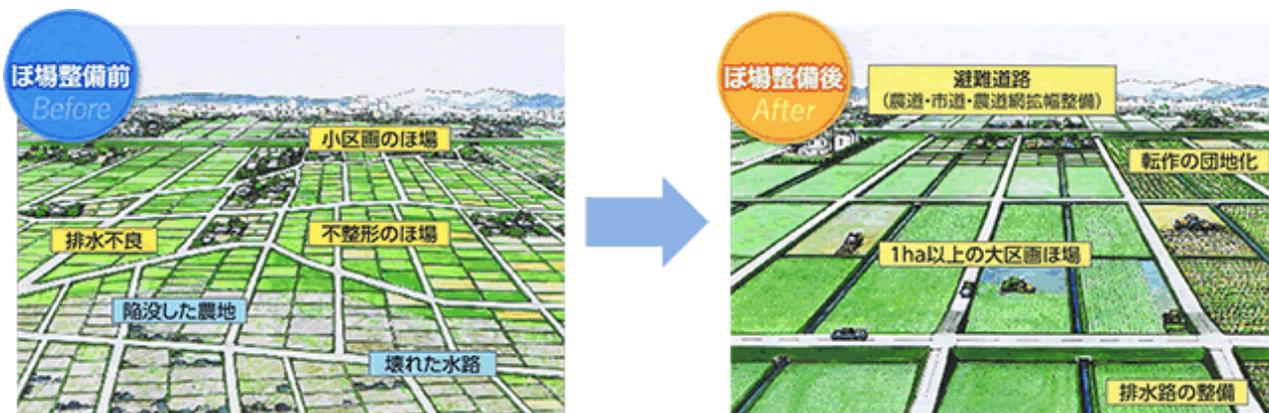
仙台地方振興事務所農地整備第一班では、主に農地整備、農地海岸の災害復旧工事に関する業務を担当しています。具体的には、震災の津波により流出、崩壊、沈下するなど広域にわたり壊滅的な被害を受けた海岸保全施設（護岸や堤防、防風林、防潮水門）の復旧事業などです。現状としては、防潮堤防、防潮水門が復旧され、現在は雨水排水のための排水機場築造工事が進められ、平成31年1月の竣工を目指しています。また、農地の被災が著しい地域については、農地復旧にとどまることなく農業・農村の再構築を目指し、農地整備事業との一体的な施工について関係市町の震災復興計画と調整を図りながら推進しています。現在、松島町手樽地区で171haの農地整備工事を8工区に分け、平成31年5月からの作付けに向けて事業の促進が図られています。



農地整備事業 名籠工区の平面写真（松島湾に囲まれている農地A=16.29ha）

### 3 派遣業務についての感想

現在進めているほ場整備事業は、広い地域を一体的に整理することから、農地を集約することで効率的、効果的な農地の活用、新たな農業の展開、担い手の育成、競争力のある経営体の育成を促進し将来にわたり持続可能な農業の振興を図ることを目的としています。



私は、初めて農地整備の業務を担当しています。農地の集約化を図るとともに、作物に適した土を作り、必要な水を必要な時期に供給し排水することのできる農地を整備していますが、そのような中で、良い土と稲作に適した水をいかにコントロールするかが大切な要素であることを学び、また、工事を進める中でその難しさを体験しています。

今回の派遣業務については、迷いながら、躓きながらの一步一步ではありますが、慣れない環境こそが自身の成長の機会であると考えています。そして、本事業により、地域の活性化が進み、地域発展に寄与することを期待するとともに震災復興に少しでも携われたことに感謝しています。

(平成30年10月作成)